桜十字病院　広報誌

桜ふわり

SakuraFuwari

2026
autumn

2026年
病院機能評価
特別号



病院機能評価 REPORT

病院機能評価

公益財団法人日本医療機能評価機構
2026.6.5認定

慢性期病院として全国ナンバーワン

S評価 13 獲得

全国の慢性期病院を主たる機能とする機能評価認定病院

S評価数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13（当院）	14以上	合計
病院数	79	28	19	6	2	2	1	1	-	-	-	-	-	1	-	139
構成比	56.8%	20.1%	13.7%	4.3%	1.4%	1.4%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	100%

※最新の機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0、3rdG:Ver.3.0にて受審した139の慢性期病院のS評価獲得数を、日本医療機能評価機構のWEBサイトの「病院機能評価結果の情報提供（2026年6月5日時点）」から当院が独自に集計

病院機能評価（3rdG:Ver.2.0、3rdG:Ver.3.0）を受審した全ての病院

S評価数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14以上	合計
病院数	819	503	309	182	101	66	42	30	23	12	8	5	-	5	4	2109
構成比	38.83%	23.85%	14.65%	8.63%	4.79%	3.13%	1.99%	1.42%	1.09%	0.57%	0.38%	0.24%	0.0%	0.24%	0.2%	100%

※最新の機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0、3rdG:Ver.3.0にて受審した急性期病院を含む全病院（2000以上）を、日本医療機能評価機構のWEBサイトの「病院機能評価結果の情報提供」（2026年6月5日時点）から当院が独自に集計

慢性期病院 全国1位

全国5位

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2038-3号

病院機能評価は、日本医療機能機構による評価です

患者さまの命と向き合う病院には、その病院の質を担保するために備えているべき機能があります。
国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として 1995 年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立、公平、な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。



病院機能評価 特設ページ▼



フランスの絵本『まってる。』がテーマのまってるラウンジ

ここにいる、全ての人の生きるを満たす。

01

患者中心の医療	1.6.2

療養環境を整備している

審査結果報告書

診療やケアに必要なスペースを確保している。病棟内は空調や静寂、臭気に配慮して管理している。寝台浴槽と一般浴槽を設置している。身障者用トイレを病棟各所に設置している。さくら館の病室は足元まで広がる窓があり、ベッドで横になったまま景色を楽しむことができる。安全や利便性に配慮し、院内は清潔、不潔を意識し整理整頓を行っている。患者・家族がくつろげるスペース「まってるラウンジ」には、患者・家族が利用できる「シェアルーム」、書籍や雑誌を提供する「ライブラリー」、患者が自身や知人・家族に、または知人・家族が患者に宛てた手紙をしたためることができる「レタールーム」、院内で利用できる「ヴォルカフェ」、鑑賞を楽しむ「アクアリウム」などデザイナーと検討を重ねた癒しの空間を提供している。さらに、職員や患者・家族の意見を積極的に取り入れ、荷物置き場の改善など、継続して療養環境の整備に努めていることは高く評価できる。



2024年9月にリニューアルした外来待合室



まってるライブラリー



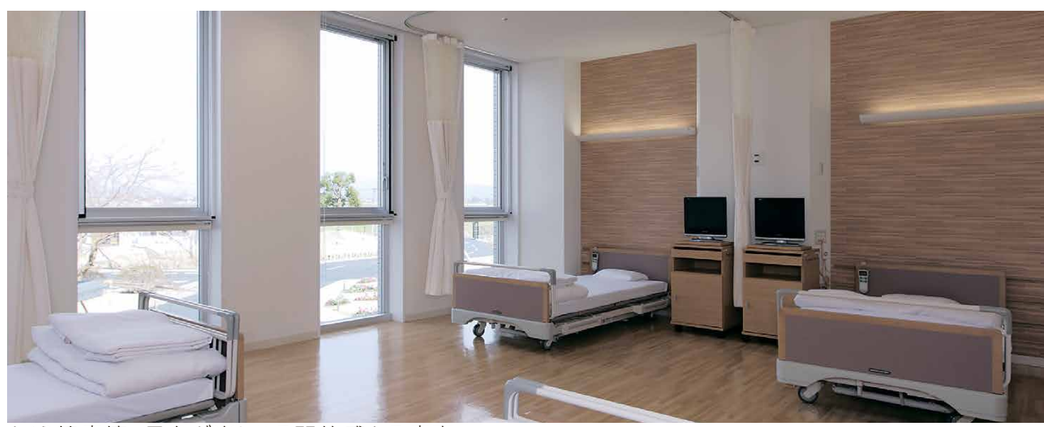
レタールーム



VOLCAFE（ヴォルカフェ）



外来アクアリウム



さくら館病棟：景色が楽しめる開放感ある病室

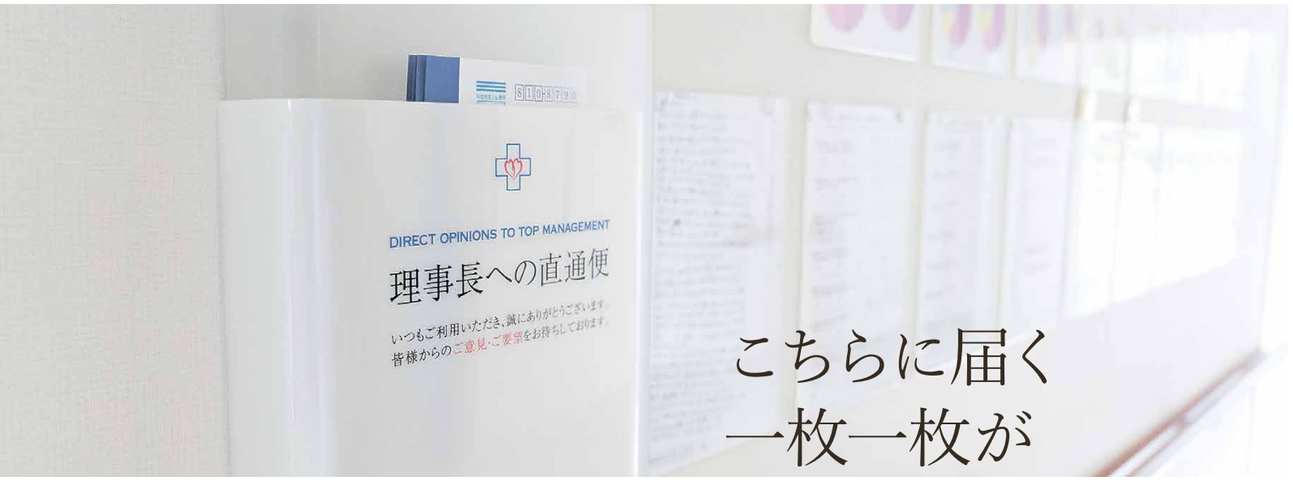
02

医療の質	1.5.3

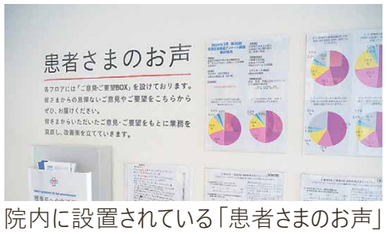
患者・家族の意見を活用し、医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んでいる

審査結果報告書

患者満足室を設置し、患者・家族からの意見・要望を集約し、医療サービスの質向上に向けて取り組んでいる。患者・家族からの意見や要望は、院内各所に設置した、理事長直通便の意見・要望 BOX をはじめ、直通電話、メール、患者満足アンケート調査などによって収集している。収集した意見や要望は、患者満足度委員会で毎月検討し、結果は本人への連絡や院内掲示板などにより周知している。具体的な取り組みの一例として、職員の接遇に関する意見から、患者満足室が中心となり、あいさつ・接遇意識の向上を掲げ、「尊厳を守る挨拶」を年度目標とし、ロールプレイや言葉遣いの振り返りを実施し、病棟ラウンドなどを通じた改善への取り組み事例が確認できた。また、毎年患者満足度調査を実施し、継続的なモニタリングを通じて質の向上に努めていることは高く評価できる。



こちらに届く
一枚一枚が
私たちの道しるべ。



院内に設置されている「患者さまのお声」





多職種で支える、リハビリの在り方。

03

ケアプロセス	2.2.18

慢性期のリハビリテーション・ケアを適切に行っている

審査結果報告書

全病棟に療法士を配置し、患者の 90％以上に対して月 13 単位のリハビリテーション介入を行い、スタッフと連携して心身・生活機能の維持・向上、離床の促進に取り組んでいる。全例に摂食・嚥下スクリーニングを実施し、歯科衛生士による口腔内診査後、医師の指示のもと VF または VE 検査を行い、摂食・嚥下機能を評価し、摂食機能療法につなげている。看護師や介護福祉士に対して移乗、ポジショニング方法を伝達し、ケアの継続性を担保している。加えて、泌尿器科、神経内科、老年病専門医の関与もあり、病棟全体で離床活動を協議・実践している点は、多職種協働による包括的なリハビリテーション体制として高く評価できる。



県内最大級700㎡
200名以上のリハスタッフが在籍。

04

部門評価	3.1.5

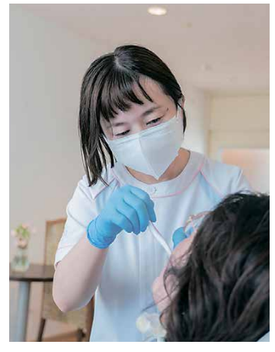
リハビリテーション機能を適切に発揮している

審査結果報告書

理学療法士 127 名、作業療法士 50 名、言語聴覚士 33 名、歯科衛生士 2 名を配置し、心大血管疾患・脳血管疾患・運動器・呼吸器、嚥下訓練などの幅広いリハビリテーションを提供している。訓練の進捗状況やリスクなどの情報は、電子カルテ上の記録やカンファレンスを通じて医療チーム内で共有している。病棟でのポジショニングや環境整備に関して、イラストを用いて情報を提供して、訓練の連続性確保に努めている。また、在宅復帰支援に関して地域連携室と協働し、退院前家屋調査を行っている。13 の専門領域チームを作り、スタッフ全体の知識・技術の向上のため、学会・研修会の参加を支援、教育確認表を用いてスキル・能力アップを図っている。訓練に用いる機器等の保守・点検体制も含めて、リハビリテーション機能を高いレベルで発揮しており、高く評価できる。

県内最多212名のリハスタッフが在籍（2025年12月時点）



理学療法士 127 名　作業療法士 50 名　言語聴覚士 33 名　歯科衛生士 2 名



上肢用ロボット型運動訓練装置「ReoGo-J」



回復期リハビリテーション病棟

TOPICS



桜十字の心臓リハビリテーション「リハビート」2025.6始動!!

循環器内科の医師が 3 名、心臓リハビリテーション指導士 7 名在籍



リカンベント型エルゴメーター



Rehabeat Concept

心臓が刻む一拍一拍は、まさに人生そのもの。
その鼓動を整えることは、
生きる力を取り戻すことにほかなりません。
リハビートは、心臓病を経験されたあなたが、
ふたたび自分らしい歩みを取り戻すための場所。
こころが軽くなり、体が自然と動き出す、
そんなポジティブな再スタートをサポートします。



通路から「作っている人」が見えるガラス張りの厨房

医食同源の想いをカタチに。

05

部門評価	3.1.4

栄養管理機能を適切に発揮している

審査結果報告書

栄養管理部の管理栄養士 18 名を配置し、調理業務を担う委託従事者と連携のうえ、献立作成・栄養管理から配膳・下膳、食器の洗浄・保管に至るまでの業務を実施している。事務室および厨房は透明ガラスを用いた構造とし、1階メイン廊下から見渡せる清潔感ある環境が整備されている。温冷配膳車の使用などにより、適時・適温で安全な食事を提供している。清潔・不潔区域の区分やドライ運用など、HACCP マニュアルおよび大量調理施設衛生管理に準拠し実施している。使用した食材および調理済み食品は 2 週間、冷凍保存している。食事の評価と改善は、栄養管理委員会での検討に加え、患者の声の収集やミールラウンドを通じて確認し、食べる喜びの提供に努めている。具体的な取り組みとして、四季を彩る「四季彩膳」や「郷土料理＋海外料理」と称して日本を旅するような気分での食事提供、「デザートバイキング」や誕生日ケーキ、「リクエストメニュー」など多様なイベント、ソフト食への取り組みが確認できた。また、オリジナルの陶磁器を使用し見た目も美味しくするなどの工夫をしている。さらに、地域の医療・介護従事者向けに NST 研究会を実施するなど、院内にとどまらず地域へも食と栄養の取り組みを発信しており、これらの取り組みは高く評価できる。


季節を感じながら食事を楽しむ行事食「四季彩膳」


選べる楽しみ、デザートバイキング



病院で故郷の味を。「日本を旅する故郷の味めぐり」


桜十字オリジナルの砥部焼でお食事を提供

TOPICS

桜十字グループ 嚥下食メニューコンテストにて三連覇！



和牛の寒天ステーキとフォアグラ風
ムースの五感で楽しむロッシーニスタイル
たんぽぽクリニック 調理師 西村健太郎 作



馬刺し
桜十字福岡病院 料理長 松尾頼 作



中華仕立てローストビーフ
白葱のポタージュソースと黒酢の雫
桜十字大手門病院 料理人 伊藤大将 作

栄養を管理するだけではない、桜十字のお食事部

桜十字病院では、栄養管理部のことを通称「お食事部」と呼びます。食べることは療養生活にとって毎日の楽しみであり、生きる源です。当院においても、ソフト食に力を入れています。常食に近い見た目で「見ても美味しい」お食事を提供することによって、患者さまの「食べる意欲」へのアプローチを行っています。


スプーンで軽く押しただけで
崩れる柔らかさ

06

部門評価	3.1.1

薬剤管理機能を適切に発揮している

審査結果報告書

16 名の常勤薬剤師が処方鑑査、疑義照会、持参薬鑑別、病院全体の薬剤管理を担っている。調剤機器、一包化監査支援装置、錠剤仕分け返納装置を活用し、ヒューマンエラー防止に努めている。定期注射薬は注射薬カートにより 1 施用ごとに払い出している。TPN 輸液の調製・混合は、それぞれ安全キャビネット薬剤部によって一元的に行い、注射薬の調製作業や安全な使用に関して、病棟看護師等へ情報提供や指導を行っている。また、薬剤情報を院内に提供するとともに、院内医薬品集をタイムリーに更新している。新規医薬品の採用の適否、採用医薬品の品目削減は薬事委員会で審議している。ポリファーマシー対策を重点施策として多職種と連携した薬物療法支援を行い、その成果を院外に発信している点や、薬剤師の資格認定を支援し、20 の認定資格を有している点は高く評価できる。

高い専門性がつくりだす、安心の医療。



在籍している認定薬剤師

日病薬病院薬学認定薬剤師：8名
認定実務実習指導薬剤師：3名
NST専門療法士：2名
抗菌化学療法認定薬剤師：1名
リウマチ財団登録薬剤師：1名
心不全療養指導士：1名
公認スポーツファーマシスト：1名
薬剤師研修センター研修認定薬剤師：1名
医療安全管理者（日本精神科病院協会）：1名
熊本地域糖尿病療養指導士：1名
終末期ケア専門士：1名



全自動錠剤分包機


錠剤仕分け返納装置


一包化監査支援装置





24時間365日
「もしも」に備える、確かな管理体制。

07

部門評価	3.1.7

医療機器管理機能を適切に発揮している

審査結果報告書

医療機器安全管理責任者は臨床工学技士が担い、医療安全委員会と連携し医療機器の安全管理を行っている。医療機器は管理台帳で管理されている。医療機器点検計画を整備し、保有する医療機器は必要なタイミングで定期点検を臨床工学技士が、日常点検は看護師が実施している。医療機器は標準化しており、使用状況を把握している。臨床工学技士は、使用中の機器について病棟に出向いて作動中の点検を実施している。使用後の機器は返却場所が明確であり、すぐに使用できる機器も明確にしている。夜間・休日のトラブル発生時は、オンコールで 24 時間 365 日臨床工学技士が対応しており、人工呼吸器の導入や設定変更、回路の交換にも対応している。取り組みとして全病棟に導入したナースコールと連動した生体モニターについて、患者が安全で職員が重要なアラームに迅速に対応できるよう多職種でアラーム設定の調整を行った。また、生体モニターと電子カルテの連動を進めており、安全性と効率性の高い医療機器管理について継続した取り組みがあることは高く評価出来る。



全国から約200名が集う「桜十字グループ学会」

進化・改善で叶える確かな医療の質

08

医療の質	1.5.1

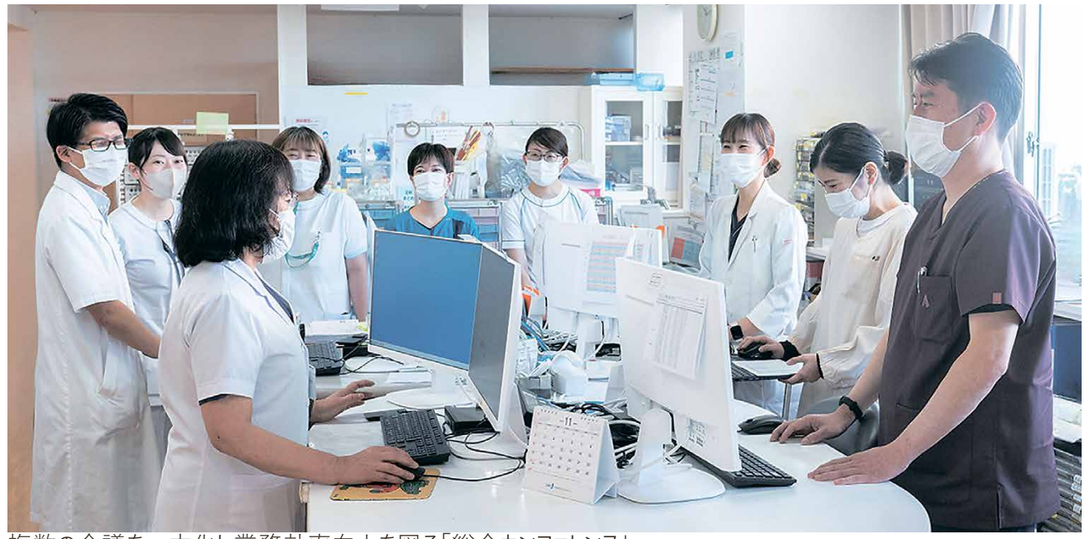
業務の質改善に向け継続的に取り組んでいる

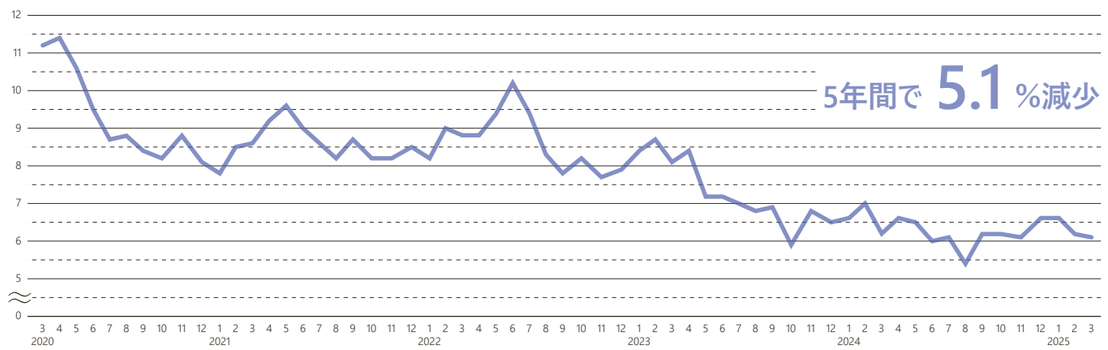
審査結果報告書

日本医療機能評価の訪問審査を継続して受審し今回で 4 回目である。また、毎年開催の院内学会や e- ラーニングによる職員学習など、委員会を中心に組織横断的な質改善活動を行っている。病院が中核となったグループによる院内学会では、全ての職種が発表し、発表内容を院内展開して活用している。具体的な事例として、身体的拘束最小化委員会のラウンドによる身体拘束率の減少や電子カルテのスキャンシステム導入によるペーパーレス化の開始、種々のカンファレンスを総合カンファレンスに集約して業務の効率化を図るなどの取り組みが確認できた。保健所立入検査の指摘事項はない。病院全体で業務改善文化を醸成し、業務の質改善に積極的に取り組んでいることは、高く評価できる。



桜十字独自のオンライン学習システム「サクラアカデミー」


複数の会議を一本化し業務効率向上を図る「総合カンファレンス」



身体的拘束の実施率推移：2020年3月は11.2%、2025年3月は6.1%、5年間で5.1%減少

09

人事・労務・教育	4.2.4

職員にとって魅力ある職場となるよう努めている

審査結果報告書

職員の意見や要望は、職員満足度調査や入職時や退職時の面談を通じて継続的に把握されている。意見や要望は、事務局人事および事務局長で内容を共有したうえで対応している。具体例として、職員の要望から駐輪場の拡張を行うなどの取り組みが確認できた。就業支援については、育児休暇、介護休暇、短時間勤務などの制度をはじめ、敷地内の「わんぱく保育園」や社員寮を整備している。保育園は 0 歳児から 4 歳児まで利用可能で、育児をしながら働く環境を整えて支援している。福利厚生面では、慶弔見舞金、社員食堂や医療費・サークル活動への補助、社員旅行、スポーツ観戦チケットの割引購入、勤労感謝の日にカタログギフトのプレゼント、24 時間営業のコンビニエンスストアの設置などがある。

また、「日本一働きやすい病院アワード 2024」において、やりがいを持ってワクワクしながら働ける病院に与える「ワクワク病院賞」の受賞や、経済産業省が実施する「健康経営優良法人」の認定を受けている。さらに、2025 年には「健康経営優良法人」の大規模法人部門の認定を受けるなど、職員の働きやすさや健康を重視した取り組みが外部からも高く評価されており、良好な職場環境づくりが推進されている点は評価できる。

桜十字は、スタッフの
ウェルビーイングから始まる。



一食350円の社員食堂。人気No.1肉うどん



わんぱく保育園：病院の敷地内にあるスタッフ専用の保育園。0歳児から預けることができる



社員寮のさくら寮



桜十字勤労感謝の日：カタログから好きな商品を選べる



全9団体のサークル活動



スタッフは24時間利用できる院内コンビニ



日本一働きやすい病院アワード2024
「ワクワク賞」受賞



健康経営優良法人に認定



10

ケアプロセス	2.2.19

療養生活の活性化を図り、自立支援に向けて取り組んでいる

審査結果報告書

季節のイベントとして、花見や夏祭り、秋祭りの馬追い、舞妓の来院、イルミネーションなど多職種で企画・実施している。日常のアクティビティについても、個別性に配慮し、裁縫やピアノ演奏など取り入れるほか、集団活動として紙カップカーリングやボーリング、玉入れなどを実施している。毎食、離床して食事することを進めているが、経口摂取をしない患者についても離床したうえで経管栄養を実施したり、離床が困難な場合はベッドのままデイルームへ移動して気分転換を図っている。

離床パスを作成･活用し、個別性を踏まえた離床支援を計画的に実施し、現在入院中の患者の 90%において、目的のある離床が実施されている。さらに、職員による売店同行や外出支援、院内散歩マップの作成、シェアルームやライブラリー､ヴォルカフェ、アクアリウムの整備なども行われている。生活の活性化や自立支援、社会や家族とのつながりを意識した多面的な支援が実践されており、高く評価できる。

こころおどる、日々が彩る。



春のお花見



夏祭り



秋の馬追い



冬のサンクスイルミネーション



地域医療連携の中心的役割を担っている

急性期から在宅まで切れ目のない支援を。

11

情報発信と連携	1.2.2

地域の医療機能･医療ニーズを把握し他の医療関連施設等と適切に連携している

審査結果報告書

地域における位置付けを明確にし、急性期医療のポストアキュートとして中心的な役割を担っている。地域の医療機関や在宅・福祉施設、行政などと連携し、予防医療から在宅ケアまで切れ目のない医療の構築に取り組んでいる。地域連携室の職員が中心となり、近隣の医療関連施設など定期的に年間 200 件程度を訪問し、面談等を通じて、地域の医療ニーズの把握や顔の見える連携に努めている。また、近隣の急性期病院のカンファレンスに毎週参加し、急性期からの患者受け入れについて情報を共有して速やかに受け入れられる体制を構築している。患者の紹介や逆紹介を把握し、紹介患者に対する返書管理を徹底している。さらに、入退院経路の把握や入院目的、疾病統計を作成し、傾向を分析するなど地域の医療関連施設との連携強化に向けて取り組んでいることは高く評価できる。



地域の様々なイベントに医療・健康を伝えるブースを出展

健康の学びを、未来の力へ。

12

情報発信と連携	1.2.3

地域に向けて医療に関する教育啓発活動を行っている

審査結果報告書

健康や医療に関する教育・啓発活動に積極的に取り組み、さまざまな機会を通じて地域に向けて活動を発信している。特に、毎月開催する「生き活き健康教室」は、熊本市が運用する熊本ポイント事業（健康づくり活動を行う市民にポイントを付与し電子クーポンなどに交換できる仕組み）と連携し、医療・介護に関する知識や健康づくりの重要性を地域へ広く伝えている。また、プロバスケットボールチーム、熊本ヴォルターズと共同で開発した「ヴォルさく体操」を取り入れるなど、健康づくりをサポートしている。地域住民向けの病院見学会、高校生向けのオープンカンパニーなどを実施している。さらに「市民公開講座」や「健康フェスタ」など地域に根ざした多様な教育活動も継続的に実施している。また、地域の医療関連施設等を対象に、排尿ケアを考える会、食事サポーター養成講座、リハビリ技術セミナー、緩和ケア研修など専門性を活かした研修も展開している。加えて、地域密着リハビリテーションセンターとして地域包括支援センター等と連携し、介護予防や機能訓練、生活支援にも取り組んでおり、地域に根ざした体系的な健康づくりの推進は高く評価できる。



イベント参加者と一緒にヴォルさく体操


高校生対象のオープンカンパニー


子どもたちへ医療を身近に「ハッピーキャラバン隊」


ボバース研修会

TOPICS



生き活き健康教室は、2025 年 6 月開催分より、「熊本アプリ」および「熊本健康アプリ」のポイント付与対象講座となりました。講座への参加を通じて健康づくりに取り組みながら、アプリのポイントを取得することができます。桜十字病院は今後も熊本市と連携し、地域の皆さまの健康増進と介護予防を支援。誰もが気軽に学び、健康づくりに取り組める機会を提供してまいります。

生き活き健康教室が、熊本市の「くまもとアプリ」と「げんき！アップくまもと」アプリのポイント付与対象イベントに！



外来待合室の大型モニター

地域とつながる、ひらかれた病院へ。



広報誌：桜ふわり


TKUテレビ熊本 TV番組
「WELL-BEING FRONTIER」


桜十字病院公式ホームページ

13

SNSでも日々積極的に情報発信！

情報発信と連携	1.2.1

必要な情報を地域等へわかりやすく発信している

審査結果報告書

地域へ必要な情報は、事務局広報が中心となり、組織的に検討し、ホームページや広報誌、SNS など、病院の情報発信に関する実務を担当している。ホームページには、受診に必要な情報や最新情報、診療実績を掲載し、地域住民を対象した「生き活き健康教室」などの情報を含めて、ホームページは月１回以上更新している。また、医療機関向け広報誌「桜ふわり」を毎年発行し、ニューストピックスや部署紹介、協力医療機関の紹介、新規採用の医師などを紹介し地域や医療機関、行政に配布している。さらに、広報誌内に記載のQRコードから、YouTube、Instagram、Facebook が閲覧でき、動画などを通じて幅広い活動への取り組みを紹介している。院内に大型デジタルサイネージを設置し、案内やお知らせを発信している。地域住民向けの様々な活動や病院の診療機能等をメディアなども活用して、わかりやすく発信していることは高く評価できる。

人生100年時代の生きるを満たす。


桜十字病院 院長
倉津 純一

多職種が連携して取り組むチーム医療の姿勢こそが原動力

桜十字病院は 2025 年、5 年ぶりとなる病院機能評価機構の審査を受審しました。今回の目標は、前回を上回る S 評価の獲得と、改善の余地を指摘される B 評価を減らすことでした。その結果、対象項目のうち S 評価 13 項目、B 評価 2 項目という極めて高い評価をいただき、目標を達成することができました。S 評価を獲得するためには、一定の標準レベルを超えるだけでなく、病院独自の取り組みや強みが評価される必要があります。また、B 評価項目を限りなく減らしていくことも重要です。

評価結果の前回比較

評価ランク	2015	2020	2025
S　秀でている	2	9	13
A　適切に行われている	58	71	72
B　一定水準に達している	27	8	2
C　一定水準に達しているとは言えない	0	0	0

630 床を有する慢性期病院であり、職員数も 1000 人近い大規模な組織において、全員が心をひとつにして物事に取り組むことは決して容易ではありません。しかし、日頃からの情報共有や、多職種が連携して取り組むチーム医療の姿勢こそが、今回の結果につながった大きな原動力であったと感じています。
当院は昨年、開設 20 周年という節目を迎えました。次回の受審では、さらなる高みを目指し、「ハッピースパイラル」「WELL-BEING FRONTIER」を掲げながら、より質の高い医療とウェルビーイングの実現に向けて歩みを進めてまいります。これからも、桜十字病院は挑戦と進化を重ね〝生きるを満たす。〟医療を追及してまいります。



桜十字病院｜民間病院として熊本最大級　病床数 630 床

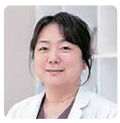
桜十字病院は、熊本県熊本市南区に位置するケアミックス型の病院です。外来診療、入院、リハビリテーション、在宅医療など多岐にわたる医療サービスを提供しており、630 床を有する熊本県内最大級の民間病院として地域医療を支えています。また、予防・健診・外来を担うメディメッセ桜十字と緊密に連携することで、「病気を防ぐ」「早期に見つける」「治療する」「回復を支える」「住み慣れた地域で暮らし続ける」までを一貫してサポート。地域社会にとっての「公器」として、多様なニーズに応えながら、患者さまやご家族、そして地域全体が安心して暮らせる社会の実現に貢献しています。
私たちは、「桜十字に関わるすべての人が幸せになれるモデルを全国へ広げたい」という理念を掲げ、「桜十字があってよかった」と思っていただける存在を目指し続けています。これからも患者さま中心の医療を提供し、日本全体の地域医療のさらなる向上に取り組んでまいります。

医師紹介


脳神経外科
院長
倉津 純一


脳神経外科
副院長
三原 洋祐


脳神経外科
特別顧問
竹島 秀雄


脳神経外科
賀来 藍子


脳神経外科
北村 伊佐雄


胃腸科
消化器内科
瀬上 一誠


消化器内科
浦田 淳資

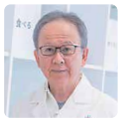

内科
呼吸器内科
青木 志保


リウマチ
膠原病内科
院長補佐
中村 正


内科
上級顧問
坂本 興美


内科
特別顧問
乾 誠治


内科
石原 まゆみ


神経内科
脳卒中
寺﨑 修司


内科
腎臓内科
白石 直樹


腎臓内科
藤本 歌織


循環器内科
院長補佐
医局長
森上 靖洋


循環器内科
藤井 裕己


循環器内科
伊藤 彰彦


外科
小児外科
特別顧問
池田 信二


外科
麻酔科
院長補佐
蓮尾 友伸


外科
麻酔科
坂本 英世


外科
久米 修一


泌尿器科
副院長
吉田 正貴


整形外科
島田 政博


整形外科
甲斐 信


リハビリ
テーション科
川嵜 真


放射線科
古閑 幸則


外科
消化器外科
佐野 收


緩和ケア
吉本 美和


小児科
中村 俊郎


訪問診療
吉田 大輔

病院概要

■ 診療科目19科目

内 科
循環器内科
呼吸器内科
消化器内科
リウマチ科
糖尿病内科
泌尿器科
放射線科
脳神経外科
脳神経内科
整形外科
外 科
小児科
小児外科
リハビリテーション科
麻酔科(蓮尾友伸・坂本英世)
消化器外科
皮膚科
精神科

■ 総病床数　630 床

回復期リハビリテーション病棟 60 床
地域包括ケア病棟 48 床
障害者施設等一般病棟 160 床
緩和ケア病棟 25 床
特殊疾患病棟 60 床
医療療養病棟（在宅復帰強化型）277 床

■ 施設の特徴

在宅療養後方支援病院
脳卒中リハビリセンター
呼吸器センター
血液浄化センター
リハビリテーションセンター
└ 心大血管疾患リハビリテーション
└ 脳血管疾患等リハビリテーション
└ 運動器リハビリテーション
└ 呼吸器リハビリテーション

医療法人 桜十字
桜十字病院

外来受付時間
【平日】午前 9：00 ～ 12：00　午後 1：00 ～ 5：00
【休診】土曜日・日曜日・祝日・年末年始
URL：sakurajuji.or.jp

YouTube チャンネルで最新情報発信中！

桜ふわり　号外　2026年11月発行　発行・医療法人桜十字　桜十字病院　広報
〒861-4173 熊本県熊本市南区御幸木部1丁目1番1号 Tel：096-378-1111 Mail：info@sakurajyuji.jp 受付時間／9:00～17:00／土・日・祝日除く